

第2回滋賀県子ども若者審議会 ひとり親家庭支援・子どもの貧困対策検討部会 概要

1 開催日時・場所

令和元年8月29日(木) 14時00分～16時00分
大津合同庁舎6D会議室

2 出席委員(五十音順、敬称略)

小林江里子、酒井左衛子、柴田智恵美、高橋啓子、谷口郁美、西田善則、林一郎、
幸重忠孝、湯室美世子

3 議題

(1) ひとり親家庭支援・子どもの貧困対策検討部会報告書(案)について

(事務局) 滋賀県子ども若者審議会規則第5条第7項において準用する第4条第3項の規定により、委員の過半数の出席が必要となるところ、委員数11名中9名が出席していることから、本部会は成立していることを報告。

(事務局) 議題について、資料、参考資料により説明

(委員)

・現在生活に困っていて、後からくるお金の支援ではなくて、今すぐにお金などの支援欲しい人もいるのが現状。

(委員)

・P13「ひとり親家庭に配慮した職場などの保情報提供」について、事業所内保育所等を念頭に置いているのであれば、ひとり親に特化せず、「働きやすい職場」を推進していく方向性の方がよいのではないかと。

(事務局)

・保育所等子育てに配慮した環境があつて、結果的にひとり親家庭の就労につながるといった表現にさせていただくのはどうか。

(委員)

・実態として、ひとり親家庭では、子どもに何かあつたら仕事を休まざるを得ないこともあり、就業に影響しているところもある。企業の理解・配慮が必要であり、企業にも情報提供が必要。

(部会長)

・ひとり親家庭に特化した保育所、病児保育の充実、また理解・配慮のある企業に対する表彰のモデルケースなどあってもよいかもしれない。滋賀県において、保育士不足もあり、0～3歳児の受入れが少ない。滋賀県が目指す就労の継続できる働き方にも影響する。保育士不足の現状がある。

(委員)

・ひとり親家庭に関する企業側の受け止め方が重要である。企業認証など指標により、見えてくるところもある。ひとり親サポート定期便について、県庁内の情報だけでなく、他の機関の情報をもっと掲載していければよいのではないか。

(部会長)

・在宅勤務など許容度の高い働き方がすすめば、状況も変わるかもしれない。

(委員)

・在宅勤務は、設備等費用の問題、上司からの指示の問題はあるが、促進が必要。

(委員)

・勤め始めた後にひとり親になるケースもあり、そういった方への環境づくりにもつとめてもらいたい。

(委員)

・本人への幅広い情報提供が重要である。
・働きやすい環境づくりという点で、介護の現場では、比較的ひとり親の方が多く働いており、子連れ出勤も可能などところがあると聞いている。情報提供の中に積極的に出してほしい。

(事務局)

・ひとり親が働きやすい職場づくりとして、平成28年度から平成30年度にかけて、女性の多様な働き方普及事業として、企業向けセミナー等を実施してきた。

(部会長)

・実際に就労につながった実績は。

(事務局)

・確認させていただく。

(委員)

・議論として企業就労のひとり親の話が中心に進んでいるが、ひとり親の中には就労が

困難な場合もある。

- ・夜間保育を増やすなど行政としても、そういった層（深夜の飲食業・サービス業・病院施設などの職員）への取組も考えるべき。

- ・ファミリー・サポート・センターの夜間での活用などもモデル実施が考えられる。

- ・企業への補助、税制優遇措置など具体的なバックアップなどがあれば参入が見込めるかも。

- ・若者の生活困窮にある過程では、就労支援機関へ行くことが困難なステージで動けないままの場合も多い。障害分野でのジョブコーチのような施策がモデル的にできれば動くことができる若者がいる。

（委員）

- ・不登校気味であったり、課題を抱える親・子も多く、スクールソーシャルワーカーの量と質の確保が重要。

（委員）

- ・ひとり親の中学生を対象に、居場所づくりという観点で学習支援、食事の提供を2年前から実施している。月2回公共施設を活用して、NPO指導員・学生ボランティアの支援により実施している。学習支援だけでなく、プランの中でも居場所づくりという部分で強調してもらいたい。

（部会長）

- ・大学の中に子どもの居場所をつくって、そこに参加すれば出席扱いにする取組も始まっている。居場所づくりは多様に考えられる。

（委員）

計画の目指す方向の部分で、（2）子どもの貧困対策のところ、

- ・就労支援、生活支援、経済的支援、教育支援と施策的な縦割りによる4項目になっているが、つながりをつくっていく支援・視点での方向性があれば。

- ・地域づくりの観点があれば

- ・相談支援の改善の視点で、ケースを通じて相談支援が横につながっていくことが盛り込まれれば。

（部会長）

- ・相談支援のネットワーク化は相談員さんの精神面にとってもよい。

（委員）

- ・心が弱っている時に、相談をたらい回しにされるのは非常に辛い。ネットワーク化は非常に重要

(委員)

・アウトリーチの支援に関して、学習支援では、子どもを集めて行う塾型が多いが、それ以外にも子どもが必要なところに教えに行く形（家庭、お店）や子どものところへ行く形（学校での授業補助や不登校の別室対応の補助）など様々ある（箕面市、東京都など）。県内ですでに実施している定時制高校内での居場所設置など顔が見える関係から新たな情報を得られたりするアウトリーチ型はこれからますます重要に。県としてモデル的にやってもらえたらよい。

(部会長)

・助言型の関わり方に限界があり、相談の在り方として、一緒になってやっていく関わり方で成果につながっている。

(委員)

・助言型の相談で辛さを感じる方がいたり、対面式の相談をしてきていない世代からするとそもそも相談電話をすることに踏み出せなかったりする。情報をより得やすい仕組みがあれば。

・居場所づくりには、人が必要であり、人材の育成が必要。

・共働きで経済的には貧困でない場合でも、心の部分で子どもが貧困になってしまう場合もあり、周りの大人が気づいてあげないといけない。子どもが周りにつらさや現状を伝えることができるような教育が必要。

(部会長)

・今のひとり親は大学・大学院まで子どもに通ってほしいと考える方も多く、経済的な理由で私立を諦めたりせず、希望の進路を目指すことができる支援が必要。

(委員)

・奨学金等は受け取り手が使えるものでなければ意味がない。県として利用者ニーズで分かりやすいツール（使い安いハンドブックやスマホで気軽にアクセスする情報サイトなど）を作ることが必要。

・その際に子ども、保護者の意見を踏まえながらやっていくことが必要。

(部会長)

・奨学金については、情報が多すぎて個人では整理しきれず、行政の力が必要である。

(委員)

・ひとり親家庭も教育分野には大きな期待を寄せており、教育を受けて社会に出てほしいという思いがあるが、経済的な状況が大きく影響し、返済がいらぬ奨学金の要望が多い。

(部会長)

- ・大学には長期履修制度があるところもあり、そういった情報がまとめればよい。

(委員)

- ・受験前に期間限定で、進路に関する経済的な相談を行う窓口を開設してみるという手もある。

(委員)

- ・最終的に、貸付に頼らざるを得ない場合もある。

(委員)

- ・社協と協力して、貸付の窓口でどのようなニーズがあるのか調査を行うのも一つの手段。

(委員)

- ・県などが対応できない土日に母親から「今日食べるものがない」と連絡が入ることもあり、24時間開設している窓口があれば。

(委員)

- ・SDGsの視点で取組を推進するうえで、フードバンク等リユースの仕組みでうまくいっているものを行政がバックアップしていただきたい。

(委員)

- ・ワンストップの相談とまでいかななくても、勉強会など相談員同士の横のつながりも大切。

(委員)

- ・守秘義務によりひとり親家庭福祉推進員と民生委員児童委員との情報共有が難しい現状がある。

(部会長)

- ・個人情報を守らなければならない反面、守ってばかりでは支援につながらない面もあり、扱いが難しい。
- ・P14「面会交流」について、DV事例において課題もあり、このままの表現でよいか。

(委員)

- ・市町の施策を踏まえて、市町と同じ方向を向いて、施策をすすめてもらいたい。

(委員)

- ・5年間の施策であり、具体的施策の推進において、現行の施策にとらわれ過ぎないようにしてもらいたい。
- ・国の予算事業名に縛られることなく、活用できるところは分野横断的に国の予算を活用して施策を進めてもらいたい。

(委員)

- ・より具体的な案が盛り込まれた方がわかりやすい。

(委員)

- ・今現在行われている県内の取組（行政・民間問わず）をもっと出してもらいたい。
- ・各市町のよい取組を紹介してもらいたい。
- ・たらい回しにされているので子どもの貧困対策の部署が県内や市町に必要。
- ・この5年間で支援者間（行政・民間問わず）のネットワークづくりをしてもらいたい。
- ・法改正にもとづいて当事者の声を反映できるような仕組みにってもらいたい。
- ・SSWを配置するだけでなく、何をしてもらおうのか明確にしてほしい。

(委員)

- ・数値目標の設定はこれまでの取組を踏まえて、現実的な目標を

(委員)

- ・幅広い情報をしっかり届けることができる取組を進めてもらいたい。

(事務局)

- ・県の支援の立ち位置として、助言型から寄り添い型・伴走型へといったところを意識しながら、計画を策定してまいりたい。